

年度 2007 学期 後期	曜日・校時	金 3	必修選択	必修	単位数	1
授業科目/(英語名)	ドイツ語 German					
対象年次	2 年次	講義形態	演習	教室		
対象学生(クラス等)	2L4 + 2F27・28		科目分類	外国語科目(ドイツ語)		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員(科目責任者): 古賀正之 / Eメールアドレス: /研究室: 非常勤講師控室 /オフィスアワー: 金曜日休み時間(教室内のみ)						
担当教員(オムニバス科目等)						
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 現代のドイツは拡大するEU(ヨーロッパ連合)の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。 授業方法: 学習者同士による口頭表現練習と発表、さらに練習問題の反復によって基本単語とキーセンテンスを身につけること。また定期的にビデオ学習(内容についてのレポート提出を含む)を行います。 授業到達目標: ドイツ語 までに学んだ文法の基礎知識を発展させるとともに、実際にそれを活用し、日常生活の各場面に応じた会話を行ったり、知っている範囲の限られた単語や表現でも、それを手掛りに短い文章の意味を把握できるようになること。さらにドイツ語圏の社会と文化をより幅広く説明できるようになることです。						
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) ドイツ語 までの既習者を対象に、以下に示す各回数ごとのテーマ(その背景となる文法事項)に即して自分の意思・意見を相手に伝え、同時に相手から情報を得る練習を行います。また毎月1回ビデオ学習を行います。 第1回 ドイツ語 までの簡単な復習 第2回 過去のできごとを表現する仕方、および時を表すさまざまな語句を学ぶ その1(過去分詞/現在完了) 第3回 過去のできごとを表現する仕方、および時を表すさまざまな語句を学ぶ その2(過去分詞/現在完了) 第4回 過去のできごとを表現する仕方、および時を表すさまざまな語句を学ぶ その3(過去基本形/過去時制) 第5回 「～がある」など位置に関する表現(前置詞2 / es gibt...) 第6回 人や事物に説明を加える表現(形容詞の格変化1) 第7回 誕生日や日付を尋ねる表現(形容詞の格変化2 / 序数) 第8回 修理・家事・料理に関する表現(受動文) 第9回 開店時間・閉店時間の尋ね方・答え方(再帰代名詞と再帰動詞) 第10回 人や事物を比べる表現(比較級・最上級) 第11回 二つの文を一つにする方法(従属の接続詞と副文) 第12回 病気に関する表現(zu不定詞句) 第13回 「現実ではないが、もし～だったらなあ」という表現 その1(接続法2式 / 非現実話法) 第14回 「現実ではないが、もし～だったらなあ」という表現 その2(接続法2式 / 非現実話法) 第15回 定期試験						
キーワード	パートナー練習・聞き取り練習・ビデオ学習・個別指導					
教科書・教材・参考書	飯田 / 江口 CD付き アプファールト スキットで学ぶドイツ語 三修社					
成績評価の方法・基準等	1. 定期試験の成績(40%)、2. レポート(10%)、3. 毎時間の口頭発表の結果(50%)で評価します。具体的には、1. 各自当学期 14 回までの授業で学んだ会話表現や文法事項を覚え、それらを含むテキストを聞き取り、正しく書けるかどうか、また、同時にその内容を把握し、簡潔に記述できるかどうか、2. ビデオで取り上げられた内容について、自分の知識や経験に基づいて、説得力のある確かな意見を示せるかどうか、3. 各回ごとに取り扱う場面にふさわしい会話表現を覚え、その背景となる文法を理解し、それを用いて意思の疎通ができるかどうか、という観点から成績を評価します。					
受講要件(履修条件)	必要出席回数を上回ること。					
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	母国語、英語以外の言語を習得すること。 / それによって新たな知的視野を広げること。					
備考(準備学習等)	独和辞典は授業中に必要に応じて使用することがあります。 次回の授業で用いる会話表現の意味を調べ、覚えておくことが望ましい。					